

書評

『中医基本用語辞典』

監修：高金亮 主編：劉桂平・孟静岩

翻訳：中医基本用語辞典翻訳委員会

東洋学術出版社 A5判 872頁 ビニールクロス装・函入り

定価：本体8,000円＋税

大野修嗣 大野クリニック



今般、東洋学術出版社から『中医基本用語辞典』が上梓された。中医学、漢方を志す者にとって待ち望んでいた一書である。監修の高金亮氏を始め、主編・編者は天津中医薬大学の錚々たる面々である。訳文の統一作業を畏友である渡邊賢一氏が担当し、こなれた日本文となり訳文としての違和感がない。

近年の伝統医学の興隆は、臨床医が好むと好まざるとに係わらず、その正確な情報を習得せざるを得ない状況が醸成されてきている。夥しい数の中医学の教科書が翻訳され、わが国の臨床家の手による解説書も多数上梓されている。しかし、わが国には本書に匹敵する本格的な用語辞典がなかった。本書はこのような要望に的確に答えられる名著であり、真に時宜を得た一書である。

医学において用語の定義は決定的に重要なはずである。わが国の中医学あるいは漢方の論文を渉猟するごとに、使用している用語が中医学、日本漢方のいずれなのかに無頓着なものが数多い。中医学と漢方でまったく同じ用語を使いながら、その意味する病態が逆転することも稀ではないことを考えれば、この用語の混乱に目を瞑るわけにはいかない。このような状況の下、本書が上梓され

たことは誠に喜ばしい。本書には頻用されている中医学の用語が網羅され、比喩や豊富な図表が用いられるなど十分な気配りが見て取れ、分かりやすさという点で他に例をみない。本書が中医学における用語の標準的定義を示し、用語の解説は、単に語句の意味説明に止まらず、中医基礎理論を踏まえた中医学全体からの意味付けがなされ、治療方法までも示されている。巻末には同義語集・中国医薬学史年表・五行分類表・中薬一覧表・方剤一覧表が用意され、さらに度量衡換算表には、年代による変遷も明記されていることで熟練の中医学者にとっても得がたい一書といえる。中医学の教科書から本書と同様の情報を得ようとすれば膨大な書物を紐解き、中医学理論、弁証論治（中医学的診断・治療方法）の全体像を把握しなければならないであろう。中医学を、また広く伝統医学を習得しようとする者は、本書を片手に中医学の教科書に臨むことが伝統医学習熟の極意となるのではあるまいか。中医学の初学者、日本漢方の専門医、さらに伝統医学に不慣れな医師に対してもうってつけの中医学解説書ともなり得ると考える。臨床に係わる医師にとって、標榜の枠を超えて本書を手にするをお勧めしたい。